

3. 授業研究について

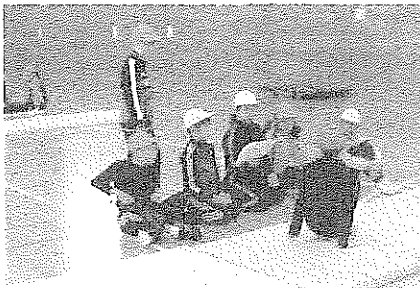
平成 29 年度は、「運動に魅力を感じ、自ら学び、高め合う体育活動の創造 ～生涯スポーツを目指したカリキュラムの開発～」と主題を設定し、その具現化を図る研究を推進してきた。

○研究授業①

平成 29 年 12 月 5 日 (火) 函館市立桔梗小学校 5 年 マット運動 (器械運動) 教諭 一戸 寿勝

児童への事前のアンケートから、「技ができそうにない時」、「失敗して友達に笑われた時」に、マット運動の楽しさを感じないとあった。また、「うまくいって友達にほめられたとき」に、マット運動の楽しさを感じるとあった。このことから、自分の技を高めるだけでなく、技ができそうにないときにアドバイスしてもらったり、目の前で実際に技を見てもらったりして、どの児童も仲間との学び合いを大切にして互いに高め合いながら学習を進めることにつなげていくために、グループ学習の学習形態を取り入れた。

また、単元の終末に「マット記録会」を行う構成とした。「演技を組み立てる」、「記録を高める」というように、児童が学習の見通しをもちながら運動への意欲をもち続けて学習を進められることにつなげたと考えた。



マット記録会に向けて、演技構成のアドバイス



グループの仲間に、みんなで賞賛の拍手



アドバイスをもとに、記録会に向けて演技を再構成

・成果と課題

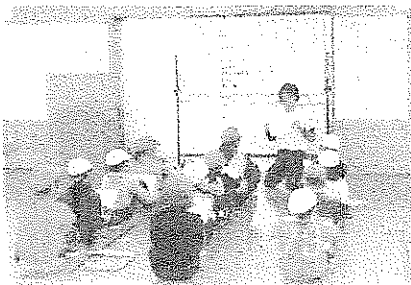
グループ学習を中核とした主体的な学習を展開し、学び合い、伝え合い、高め合う活動を重視することで、すぐアドバイスしてもらえる環境があり、アドバイスし合う姿が見られ、授業に全員が意欲的に取り組んでいる様子が見られたことが成果として上げられる。

中学校の先生方も参観しており、小中の接続の観点で、低学年から中学校の9年間の中で、どの時期にどの技を習得すべきかを再確認する必要があるという課題が出された。

○研究授業②

平成 30 年 2 月 9 日 (金) 函館市立北星小学校 4 年 マット運動 (器械運動) 教諭 前田 則文

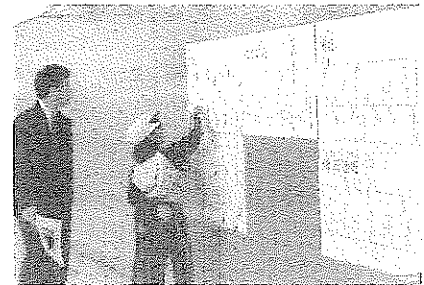
研究授業①をもとに、4年生の少人数学級において、グループ学習の学習形態を取り入れたマット運動の研究授業を行った。技ができるためのコツを互いに見付けながら、できる技を増やしていくという学習の流れである。直接的な対話だけでなく、見付けたコツを付箋紙に書いて掲示資料に貼っていくことで、コツが共有化されていくことをねらった。また、うまくできずに困っていることを書く付箋も用意した。自分が見付けたコツが仲間の課題の解決につながっていくという考えを児童に与え、仲間との学び合いを大切にして互いに高め合いながら学習を進めることにつなげていくことをねらった。



みんなで技のコツを探して、できる技を増やそう!



相手の課題について、試技の後にアドバイス



付箋には、この技のコツがこう書いてあるよ

・成果と課題

低～中学年においては、技を習得していくのに遊びの要素がある活動を通して、少しずつ感覚をつかんでいくことも有効であるのではという意見が出た。児童は熱中して取り組み、けがの防止にもつながり、運動量を増やすことにもつながるとともに、運動の広がりも生まれるのではないかと考えを得ることができた。